

山脇学園中学校

2024年度 入学試験問題

帰国生入試

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は30分間です。
3. 問題は□～□までです。
4. 解答はすべて解答用紙に書きなさい。
5. 解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。
6. 字数指定のある問いは、句読点・記号も一字として数えます。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

現代人は総じて、感覚的に捉えることが苦手な人が増えています。都市社会、情報化社会では、社会が感覚を消していく方向に進んでいくからです。なかでもテレビの責任は大きい。

① テレビはとても強力な視覚メディアです。テレビの映像は、一見、公平・客観・中立なものに見えますが、テレビの映像はカメラマン個人の視点です。テレビが普及して以来、一個のカメラが撮っている映像を全視聴者が見るという、非常に異常な事態が続いているのです。

そうすると何が起こるか。視聴者は、その一つの視点が現実であるかのように感じてしまう。一人の視点を全員が共有できるような錯覚が生じるのです。

現実の人間は視点を共有することなんてできません。全員、違うものを見ている。ところがテレビばかりに没頭すると、そこを忘れてしまします。これはとても危険なことです。

私は講演でよく、こう話しかけます。「皆さん一人ひとりが見ている『養老孟司』には、一つとして同じものはありません」。座っている場所も違えば、見ている人の背の高さも違うのだから、当然です。ところがそのように「違う」ことを忘れてしまっている人が多い。感覚が鈍るとはそういうことです。

感覚は身体的なものです。第一章で書いたように、リンゴが二つあればそれぞれ違うと感ずるのが感覚です。あるいは、三人が一つのリンゴを見ても、三人それぞれ見え方が違うのが感覚です。それを「一つのリンゴ」と認識するのは、② 概念の力です。

感覚が落ちると、言葉や概念の重要性にも気づけなくなります。感覚が抜けた人たちは思考のすべてが言葉から始まってしまふ。初めに言葉あ

りき、になるのです。

私の「寒い」と他人の「寒い」は、感覚としては同じはずがありません。身体が違うのですから、感覚を共有することはできない。人によつて感覚はそれぞれです。しかし、「寒い」という概念を共有できなければ、話は進みません。だから「寒い」という言葉が必要になるのです。

こういうふうに感覚の世界は人それぞれ全部違うということがわかっていけば、言葉を「ありがたいもの」だと感じます。感覚だけではわかり合えなかった事柄を共有できるようになるからです。

ところが概念的思考だけが肥大してしまい、言葉の世界から始まってしまふと、そのありがたさがわからなくなります。③ 話が逆になる。通じることが当然であると思ひ込んでしまふのです。

そうすると、通じないことのほうが大量にあることになかなか思い至らなくなります。だから、ちよつと通じないだけで不安になる。あるいはわかつてくれないと文句を言う。

結果として、現代の人は人間関係まで^{注1} 明文化して、細かく決めなくてはいけないと思つています。人間関係も情報化すればいい。そうすればうまくいくと思つています。結果として、ますます感覚は落ちていく。その成れの果てがSNSです。

(中略)

④ SNSのような情報化社会での対人関係では、人のせいにする傾向が強くなります。そもそも都会がそうです。田舎ならば道を歩いていて石につまずいて転んだ場合、注意が足りないとお怒られる程度です。これが東京駅だったら、こんなところに石を置いたのは誰だ、訴えてやるとなる。

都会には人の作ったものしか置いてないので、何か不愉快なことが起これば他人のせいになりやすい。SNSではなおさらです。不愉快なこと

があったら、他人の言葉のせいになる。

石につまずいて転んでも自然のことだから仕方がないとあきらめたら楽なのに、あきらめなくなりました。あきらめなくなったから、いつまでも執着する。感覚が働かないので、つかず離れずという距離感をつかむことができないのです。

SNSに限らず、都市社会、情報化社会では、いつもイライラしている人、不愉快にしている人が多くなっている気がします。そういう人に、あまりまともにつき合って向こうの世界に巻き込まれたらえらいことになってしまいます。万が一、相手が頼ってきたときにどうするか。あの人はみんなから相手にされず、かわいそうだからなどと余計なことを思わないほうがいい。

その一方で完全に突き放すと、やけを起こすかもしれない。そういう人はわがままだから、甘やかせば自分の陣地を広げようとする。どういう塩梅で抑えるか。それこそ距離感という感覚の問題です。

そのときによく人はドミノ理論をもとに考えてしまいます。

I

厄介な人に対してここで譲ると、またどんなわがままを言うてくるかわからない、ドミノ倒しになる。だから強硬姿勢に出ないとだめだという考え方です。SNSでもよく見られる光景でしょう。

ここで身体があれば、たいいていの厄介な人でもドミノを最後まで倒すほど大変なことは言っていないことが感覚的にわかってきます。相手の呼吸、度合いがつかめてくるからです。

II

、SNSやインターネットの中では相手の呼吸も息遣いもわかりません。だとしたら、深入りは禁物です。本気でその相手をしようと思うと、膨大なエネルギーをつぎ込むことになりかねません。

人ばかり相手にしようとする、疲れたり不安になったり、イライラし

たりする。SNSはその注3 典型です。

世界は見方によって「対人の世界」と「⑤対物の世界」に大きく分かれていきます。

たとえば「将来の夢はユーチューバー」と言う子が増えているといいます。私もユーチューバーになってしまったので否定はしません。でも、これは子どもたちがいかに⑥「対人の世界」だけで生きているかの表れでしょう。人からどう見られるか、人どうつき合うか。こういう関心だけで世界が成り立っているのはもったいないことです。

最近の小説にも、「対人」が中心になっているものが多いように感じます。あの人がどうした、こうしたということばかり書いてあって、自然の描写が少ない。昔の文学、小説はそうではなくて、「X」がありました。自然の風景というのは、人間の外側に、人間の意思とは無関係に広がっています。

私は根っからの虫好きです。虫の世界は「対物の世界」です。対物の世界はいつも平和です。野山に虫を捕りに行っても誰にも会いません。田舎の山の中なので、コロナ禍で出歩いていても、自粛自警団に叱責されることもありません。

人間は、人の世界と物の世界を行き来することでバランスを保ってきました。「対物の世界」を遠ざければ、「対人の世界」ばかりに目が向くのは当然です。それでは煮詰まって、感覚が干上がってしまいます。

虫とつき合ってしばらくすると、今度は人の顔も見たくなくなってくる。一週間虫を眺めていたら、さすがに人が恋しくなってきました。返事がくるのがあるがたい。そのくらのバランスでいいんです。

逆に人疲れている人は、人間でないものを相手にすればいい。生身の人間を相手にするから

Y

になる。知り合いが田んぼや畑を持ってい

たら、行つて働かせてもらえばいい。鳥の声でも聞きながら、黙々と手を動かして土でもいじっていれば、何かを感じます。「気持ちいいなあ」と思うだけでいいんです。

私はよくラオスに虫を捕りに行きました。そうするとたまに、虫になっています。特に意識してそうなるうと考えているわけじゃなく、何週間も虫を見ているといつの間にかそうなる。虫になって、虫の立場でものを考えたりする。すると、人間の言葉で話したり考えるのが面倒くさくなりま

す。
対人の世界でも対物の世界でも、多様な場所に身を置けば、何事も自分の思い通りにならないことがわかります。世の中には思い通りにならないことがあることを知る。それが寛容の始まりです。

自分も変わっているし、相手も変わっている。変だと思ったら、それは自分を変なのか、相手が変わなのか、どちらかです。けどいまの人たちは「相手が変わ」と言うほうが多い気がします。自分は変わらないと思っているからです。

それを「不寛容」と言います。「何かおかしい。変なのは俺じゃない、こいつだ」となって、相手を排除しようとする。不寛容の極みです。もしかしたら、変なのは自分かもしれない。それを忘れて、自分のモノサシを固定化した瞬間、人は不寛容になります。

寛容になるためには、思い通りにいかないことを受け入れたうえで、少しずつ状況を変えていくしかありません。それには自分だって変わらなきゃいけない。そうやって人間は「努力・辛抱・根性」の方法を学んでいくのです。

思い通りにならない人や物を前にしたとき、人間の本当の意味での体力や感覚の強さが試されるのです。

(一部内容を省略しました)

【養老孟司『ものがわかんということ』】

注1 明文化：はつきり文書で書き示すこと。

注2 塩梅：物事の具合・様子。

注3 典型：代表例となるもの。

問一

I	・	II
---	---	----

 に当てはまる言葉を、それぞれ次のア～オから選

びなさい。(同じ記号を二度使用しないこと)

ア あるいは イ でも ウ また
エ やはり オ つまり

問二

X	・	Y
---	---	---

 に当てはまる四字熟語を、それぞれ次のア～ウから選

びなさい。

X	ア 風光明媚	イ 森羅万象	ウ 花鳥風月
Y	ア 疑心暗鬼	イ 前後不覚	ウ 優柔不斷

問三 線①「テレビはとても強力な視覚メディアです」とあります

が、本文で述べられているテレビの特徴として最も適当なものを、次のア～エから選

びなさい。
ア 現実では視点を共有することはできないのに、テレビの映像を通して一人の視点を全員が共有できるように感じさせること。

イ テレビの映像に没頭させることで他のことが考えられなくなり、現実とテレビの世界との区別をつかなくさせること。

ウ テレビの映像を通して一人の視点を全員で共有することで、公平・客観・中立な見方を広く伝えることができること。

エ テレビの映像は事実を伝える役割を果たしているが、一つの視点を全員が見るとい

う異常な事態を引き起こすこと。

問四 ——— 線②「概念の力」の説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 身体的な感覚が人それぞれ異なることを言葉によって認識できるようにすること。

イ 感覚だけで分かり合えなかったことを言葉によって共有できるようにすること。

ウ 感覚を表す言葉を用いて公平な視点を多くの人と共有できるようにすること。

エ 言葉を用いることで一つの物事を多様な視点から捉えられるようにすること。

問五 ——— 線③「話が逆になる」とありますが、この内容を表す言葉を、本文中から十字以内でぬき出しなさい。

問六 ——— 線④「SNSのような情報化社会」の特徴として適当でないものを、次のア～エから選びなさい。

ア 目の前に相手がいないので様子が分からず、距離感をつかむことが難しくなる。

イ 自分が他人からどう思われるかや人とどう関わるかが、関心の中心になっている。

ウ 何か不愉快なことがあると、やけを起こして投げ出してしまいがちである。

エ 何かあったときに自分の責任とは考えず、他人のせいにしてしまいがちである。

問七 ——— 線⑤「対物の世界」を説明した次の文の□に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ指定の字数でぬき出しなさい。

* 対物の世界は 1 (十字) であり、そこに身を置くことで

2 (十九字) ということを知ることができる。

問八 ——— 線⑥『対人の世界』だけで生きている」とありますが、筆者はこれによってどのような問題が生じると考えていますか。十字以内で説明しなさい。

問九 筆者の主張として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 人間はテレビやSNSから距離を取り、対人の世界でバランスを取りながら人と触れ合うことが重要である。

イ 異なる意見を持つ他者と辛抱強く向き合う努力をすることで、人間の本当の意味での強さを得ることができる。

ウ 多様な場所に身を置き、自分と異なるものを否定せず、自分が変化する寛容さを身に着けることが大切である。

エ 人の世界を完全に離れて自然に身を置くことで、他者とのバランスのとれた良好な関係を築くことができる。

二 次の1～10の――線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- 1 二人はタイショウ的な性格だ。
- 2 パーティーにショウタイする。
- 3 試合をユウセイに進める。
- 4 機械のソウサをあやまる。
- 5 友人の家をホウモンする。
- 6 今日はたいへんアツイ。
- 7 砂とセメントをマゼる。
- 8 綿密な練習計画を立てる。
- 9 仏教の教えを説く。
- 10 花を供える。

三 次の1～5の慣用句が完成するように（ ）に当てはまる言葉を□の中から選びなさい。また、その意味を、後のア～キから選びなさい。（同じ言葉・記号を使用しないこと）

- 1 水を（ ）
- 2 板に（ ）
- 3 二の足を（ ）
- 4 胸が（ ）
- 5 寝た子を（ ）

はさむ	さわぐ	おこす	ふむ
つく	かける	さす	いたむ

ア いやな予感や不安などで、心が落ち着かないこと。
イ 状況きょうがよくないときに余計なことをして、不運が重なること。
ウ うまくいつているのにじやまをして、関係や状況を悪くさせること。
エ 自分に有利になるように行動したり言ったりすること。
オ いったん収まっていたことにふれて、また問題を引き起こすこと。
カ 経験を重ね、態度や物腰こしが役割にじっくり合うこと。
キ 決心がつかず、ためらい、しりごみすること。